

阪神淡路大震災から5年半

災害に備え、もう一度確認しましょう

平成7年1月17日の阪神淡路大震災から5年半が経過、その後も有珠山や、三宅島の噴火、神津島や新島の地震など、地震の発生は増え、被害も拡大しています。

そこで、9月1日の防災の日を契機にもう一度、地域やご家庭で防災意識を確認してみましょう。



家庭での取り組み

非常用持ち出し袋の確認を！

大震災後、ほとんどのご家庭で備えていた非常用持ち出し袋、非常食の保存期限は過ぎていませんか？懐中電灯の電池は消耗していませんか？携帯ラジオは使用できるようになっていますか？もう一度、確認・点検をください。

●一次持ち出し品

持ち出し品の目安は男性で15kg、女性で10kgです。すぐに持ち出せるよう、次の物を準備して、目につく所に置きましよう。

①貴重品現金のほか、権利証書、預貯金通帳、印鑑、免許証、健



- ② 唐保険証などのコピーをとっておく
- ③ 非常食乾パン、缶詰など火を通さないで食べられるもの
- ④ 応急医薬品がせ薬、傷薬、胃腸薬、目薬、包帯など。常備薬も忘れずに
- ⑤ 衣類下着、上着、タオル、軍手、紙おむつなど
- ⑥ 携帯ラジオ予備電池も必要。多めに用意
- ⑦ 照明器具懐中電灯はできれば人数分、ろつそくは太く短いものを

●二次持ち出し品

災害復旧までの数日間を暮らすための準備です。

①食品レトルトの「飯、アルファ米などの米も主食として必要です。家庭によ

もし家族が離れていたら...
こんな確認手段もあります

1 NTTの災害用伝言ダイヤル被災地域内やその他の地域のかたがたを録音音声で結ぶ「声の伝言板」です。

詳しくは、同番なしの116番にお問い合わせてください。

2 埼玉県情報センター新宿（埼玉県領事館）

埼玉県で災害が起きたときに「県内の被災情報」帰宅に役立つ「交通情報」などを提供します。
所在地新宿区西新宿1-6-1
新宿エルタワー地下1階

ては乳幼児用、病人用の食事も用意しましょう。割り箸や紙皿、紙コップなどの食事に必要なものも用意しましょう

②水飲料水は1人1日3ℓ必要です。家族全員分を3日分は、ストックしましょう。飲料水として使用するとき、必ず沸かしてから。生活用水、消火用水は浴槽や洗濯機にためておきましょう

③燃料卓上コンロや練炭、木炭などカセットコンロの予備も用意。使用するときは換気や火災に注意しましょう

④その他寝袋、毛布、テントなども用意しましょう

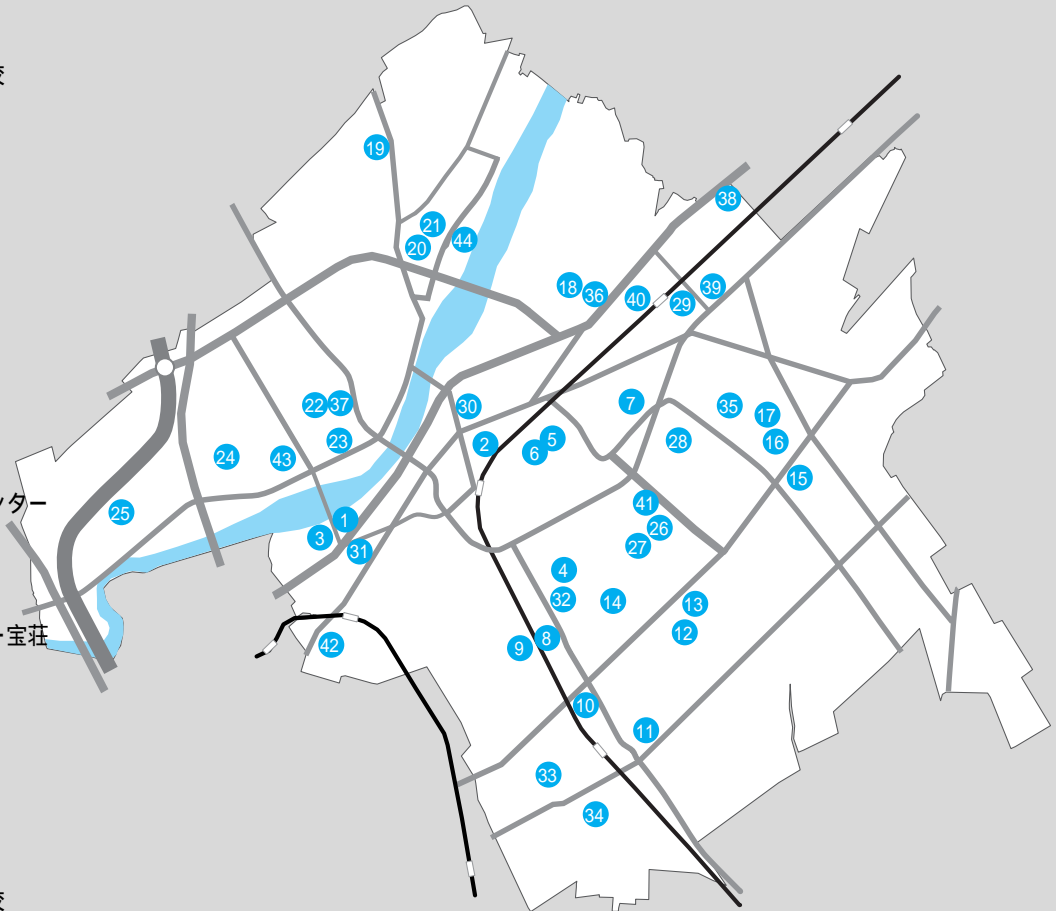
もう一度避難場所の確認を！

災害に備えて、地域の避難場所がどこか確認してください。避難場所には水、食料、医療品などをはじめ、必要な物資が保管されています。

避難場所・災害対策用施設一覧表

1は避難場所、 2は災害対策用施設のみ

- 1 入間川小学校
- 2 入間川東小学校
- 3 入間川中学校
- 4 富士見小学校
- 5 東中学校
- 6 中央中学校
- 7 新狭山小学校
- 8 入間野小学校
- 9 入間野中学校
- 10 入間小学校
- 11 入間中学校
- 12 山王小学校
- 13 山王中小学校
- 14 御狩場小学校
- 15 農村環境改善センター
- 16 堀兼小学校
- 17 堀兼中学校
- 18 奥富小学校
- 19 老人福祉センター宝荘
- 20 柏原小学校
- 21 柏原中学校
- 22 広瀬小学校
- 23 西中学校
- 24 水富小学校
- 25 笹井小学校
- 26 狭山台中学校
- 27 狭山台南小学校
- 28 狭山台北小学校
- 29 三ツ木公園
- 30 市民会館 1
- 31 コミュニティセンター
- 32 狭山工業高等学校



- 33 南小学校
- 34 狭山体育園 1
- 35 老人福祉センター寿荘
- 36 狭山清陵高等学校
- 37 狭山高等学校
- 38 新狭山公園 1
- 39 本田技研体育館
- 40 中原公園 1
- 41 狭山台中央公園 1
- 42 狭山経済高等学校
- 43 北部備蓄倉庫 2
- 44 石原公園 2

5年半の間に引っ越しをした、模様替えをした、というご家庭も多いはず。家具の取り付けは大丈夫ですか？本棚の本が落ちないように、バンドやひもをかけておきましょう。タンスには、重いものを下に、軽いものを上にしまつようにしまししょう。大きくて重いものをタンスの上に置くと、揺れたときに落ちてきて危険です。ガラスケースなどはバンドやひもで固定し、棚板の前と両端には落下防止の枠を付けましょう。また、寝室にはできるだけタンスなどの倒れやすいものを置かないようにしましょう。照明器具も、1本のコードでつり下げるだけでなく、チェーンや針金などで数カ所を止めておきましょう。窓ガラスには飛散防止のフィルムを貼りましょう。クローラーなども、L字金具などで固定しておきましょう。



家具の固定など家の中の安全対策

阪神淡路大震災から5年半
災害に備え、もう一度確認しましょう

普段の心がけひとつで、現場の作業がスムーズに！

違法駐車は、消防車両の通行を妨害し、消火栓が使用できなくなるなど、災害時だけでなく日ごろの消火活動の妨げにもなります。また、消防車両だけでなく救急車両の通行にも影響します。1分1秒を争う消火・救急活動では、「ちよっとだけ」「いつも大丈夫だから」という気持ちで、助かるはずの命を危険にさらすことにつながるのです。普段から違法駐車は絶対にやめましょう。また、大地震などの災害時には、車を道路の左端に止め、車のキーを付けたまま避難しましょう。

消防本部には、災害を疑似体験できる施設があります。また、自治会や各種団体などに向けた普通救命講習会なども実施しています。災害時だけでなく、火事や事故などいざというときに、尊い命を守るための知識と経験を身に付けておきましょう。



消防本部の地震体験コーナーは、どなたでもご利用できます

地域での取り組み

住民同士の連帯感と防災意識を高めよう

大規模な災害時には、市や防災関係機関だけの力では十分な災害対策活動ができないことが考えられます。そんなときに頼りになるのが、地域の皆さんが自主的につくる防災のための「自主防災組織」です。

お隣にどんな人が住んでいるか分からないという状況では、災害時に救助を求めることも、安否の確認をすることもままなりません。普段からできるかぎり地域活動に参加し、いざというときに隣近所で助け合える体制を整え、自分たちの地域を自分たちの手で守る意識を高めておきましょう。この、住民同士の連帯感と防災意識の高まりが、災害に強いまちづくりの第一歩となります。



家族皆さんで訓練にご参加ください

具体的には市で実施する防災訓練に参加したり、消防署で行う普通救命講習会や防災体験コーナーの見学などで、知識を身に付けましょう。さらに、情報・消火・避難誘導・救出救護・給食給水などの班を作り、いざというときに混乱しないように、普段から組織的な訓練もおきましょう。

●防災訓練を市内8会場で実施します

いつ起こるか分からない地震災害に備えて、防災訓練を市内全地区8会場で行います。皆さんぜひご参加ください。また、当日8時に市内一斉に防災無線によりサイレンを鳴ら

します。火災と間違えないようご注意ください。

日時8月26日(土)、8時30分～11時35分
雨天は中止

地区名	訓練会場
入間川地区	富士見小学校
入間地区	南小学校
堀兼地区	堀兼中学校
奥富地区	奥富小学校
柏原地区	柏原中学校
水富地区	笹井小学校
新狭山地区	中原公園
狭山台地区	狭山台南小学校

水の備蓄を欠かさない。浴槽には常に水を張っておく
部屋のあちこちにペットボトルに入れた水を用意し、数日に1度交換する。飲み水や消火用水になる
浄水器を用意すると、ふろの水が飲める
冷凍庫には、常に自然解凍で食べられるもの(食パンなど)を入れておく

非常持ち出し袋は寝室のすぐ手が届くところに置く

重要な書類を常に非常持ち出し袋に入れておくことはできないが、番号を控えたメモ、コピーを入れておきたい

ったら便利

本験から...

こう動く

カード式公衆電話は、停電になると使用できないので10円玉が必需品

持ち出し袋には、手袋とマスクも入れると便利
消火器は初期消火のために絶対必要

(震災後の朝日・読売新聞より)

地震から身を守る心得・10か条



- すばやく火の始末
- 非常脱出口の確保
- 火がでたらまず消火
- 外へ出かけるときはあわてずに

まず、我が身の安全を

- 狭い路地、塀、がけなどには近づかない
- 避難は徒歩で、荷物は最小限
- みんなで協力しあって応急処置
- 正しい情報をつかむ

- ①まず、我が身の安全を…
何よりも大切なのは、命です。まずは第一に、机などの下にもぐると自分の身の安全を確保しましょう。
- ②すばやく火の始末
あわてず、騒がず「火を消せ」などと声をかけあって、調理器具や暖房器具などの火を、確実に消しましょう。
- ③非常脱出口の確保
非常脱出口の確保をします。地震の際は建物が歪んで出入口が開かなくなることがあります。
- ④火が出たらまず消火を
火災が発生したら「火事だー」と大声を出し、隣近所にも協力を求め、初期消火にあたります。あわてずに消火器などを使って火を消しましょう。
- ⑤外へ逃げるときはあわてずに
外へ逃げるときは、かわらやガラスなどの落下に注意し、頭を座布団などでおおって、落ち着いて避難しましょう。
- ⑥狭い路地、塀きわ、がけなどに近寄らない
狭い道や塀のそばがけの近くは、塀やブロックが倒れてきたり、がけ崩れが起る可能性があります。なるべく近寄らないように避難しましょう。

- ⑦がけ崩れに注意する
付近にがけや急斜面がある地域は、がけ崩れや土砂崩れに注意し、早めに避難しましょう。
- ⑧避難は徒歩で、荷物は最小限
避難場所までの経路は、通行がでないことも考え、複数把握しておく必要があります。一人でむやみに避難せず、自主防災組織など集団でまとまって避難しましょう。車は避難に使用しないでください。また、荷物は最小限の一次持ち出し品にまとめましょう。
- ⑨みんなで協力しあって応急救護
近所の高齢者や障害者、けがをした人などに声をかけ、みんなで助け合って応急救護にあたります。避難の際、逃げ遅れた人がいないかチェックすることも必要です。こんなとき、普段からの近所付き合いが重要になります。
- ⑩正しい情報をつかむ
安全な場所に避難できたら、正しい情報を入手しましょう。噂やデマに振り回されないよう、ラジオやテレビ、避難場所に設置される伝言板などで正しい情報を把握しましょう。

物はあとでいい。とにかく逃げろ！大切なのは命だ
寝るところには背の高い家具は避けるか、転倒防止用の留め器具を付けよう
懐中電灯は柱や壁に固定し、外すと光がつくタイプがよい
眼鏡がみつからなくて困った人が多い。ケースに入れて枕の下に置くことにした
居場所を教えるための笛も用意したい
ガラスや食器類の破片が散乱するので、スリッパ(底の厚いものがよい)が必要
脱出するときは、ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを下ろすなど失火対策も
外に出るかどうかは、家の危険度、避難場所まで安全と思えるルートがあるかどうかで判断するが、避難場所の位置、道筋は前もって知っていなければならない
年に何回かは家族で、『災害時にはどんなものが必要か』と話し合うこと。これにより防災意識も高まる

こんなものがあ
被災者の体
いざというとき、